

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2025年10月

販促・魅力発信

①三陸・常磐もの 海の幸せマーケット

- 三陸・常磐ものの水産物や水産加工品を消費者に購入いただき、魅力を知っていただく販売イベントを開催。岩手県からは、あわび加工商品について大船渡商工会議所、宮城県からは石巻、塩竈等の水産事業者が、福島県からは、(公社)福島相双復興推進機構が「ふくしま常磐大漁市」を出店した。
- 開催日：10月4日(土)～5日(日) 場所：藤崎百貨店前アーケード内



②三陸・常磐もの 海の幸せフェア

- 宮城県内の飲食店とコラボし、三陸・常磐ものの海の幸メニューを期間限定で展開。
- フェア期間：10月15日(水)～12月14日(日) 開催店舗：宮城県内の約130店舗の飲食店



飲食店一覧はこちらから
御覧いただけます

①海の幸せマーケット 会場の様子



多くの通行人が足を止め、出店事業者との会話を楽しみながら、御購入いただきました。



通行客にお振る舞い「三陸産わかめの味噌汁」を御提供



各店舗から創意工夫を凝らしたこだわりの商品を出品いただきました。

セレモニーの様子



オープニングセレモニーにおいて、佐竹東北経済産業局長、福島相双復興推進機構 戸高専務理事、株式会社藤崎 小野寺代表専務取締役より御挨拶。

②海の幸せフェア 提供メニュー例



はらこ飯



アクアパッツァ

- 老舗の和食店やモダンなレストランまで、多様な飲食店が、定番の海鮮料理のほか、普段はなかなか味わえない創作料理など、海の幸の魅力を発信しています。

■ 出店事業者

【岩手県】あわび王国大船渡PRブース（大船渡商工会議所）

【宮城県】丸多喜水産株式会社、いかの塩辛本舗 平塚商店、ヤマナカ、鮎川くじら本舗、三陸石巻 カイタク商店、マルナカ遠藤水産

【福島県】ふくしま常磐大漁市（公益社団法人福島相双復興推進機構）

- 9月26日～28日の3日間、山形市のぐっと山形にて、福島相双復興推進機構の主催で、**福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店**。山形県では初めての開催となった。
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者等12社の商品約40品を販売**。また、福島県漁連の「めひかり唐揚げ」、マルリフーズの「かけるあおさ」などの試食を実施。
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただき、商品はほぼ完売した。引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

ふくしま常磐大漁市 in ぐっと山形（山形市）



売場の様子

■ 来場者の声

「山形市は海なし市だから、水産の物産展はうれしいし興味深い。」、「いわき出身だから“常磐もの”は良く知っている。“常磐”の文字が目に入って思わず寄った。」（同様に、福島県に縁のある方が多数来店）、「めひかりの開きは珍しい。焼いて食べてみたい。」、「たこが柔らかくて美味しい。」、「（福島県の風評被害について）同じ東北なんだから気にする人間なんていないよ！」

- 中小企業の経営者・後継者、支援機関等を対象とした研修施設である中小企業大学校東京校及び人吉校の食堂において、**株式会社ニッコトラストと中小機構共同で、大船渡産のサンマを用いた「大船渡応援メニュー」を計120食提供した。(完売)**

【人吉校：10月1日20食、東京校：10月16日100食】

- 今後も三陸常磐ものの消費拡大を図っていく。

大船渡応援メニューの提供



東京校 10月16日提供のランチメニュー



人吉校 10月1日提供のランチメニュー



東京校 チラシ



人吉校 チラシ

※写真はイメージです。

中小企業大学校東京校及び人吉校 食堂のご紹介



東京校



東京校 食堂



人吉校



人吉校 食堂

栄養・ボリューム満点の食事を提供しております。
研修を受講される中小事業者・支援機関にご利用いただいています。

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、10月18日～19日の2日間、福島県福島市のあづま総合運動公園で開催された音楽と食の県内最大級のフェス「**LIVE AZUMA 2025**」と連携し、会場内の「**FUKUSHIMA FOODPARK**」エリアに福島県内**6事業者が出店**。常磐煮干し濃厚まぜそばや常磐ものたっぷり海鮮丼など、**福島県産品を使ったメニューを約9,600食提供した**。
- また、10月14日～26日の間、「LIVE AZUMA 2025」開催に合わせて、福島市内17店舗の飲食店で「**ふくしままるごとグルメフェア**」を開催し、福島を訪れる方へ福島県産品の美味しさと魅力をPRした。

LIVE AZUMA 2025

- 日程：10月18日（土）～10月19日（日）
- 場所：あづま総合運動公園



ふくしままるごとグルメフェア

- 日程：10月14日（火）～10月26日（日）
- 場所：福島市内飲食店17店舗



理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Messenger

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 本年10月5日に開催された「KITAIZUMI SURF FESTIVAL 2025」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 本年10月11日に開催された「ふたばワールド 2025inかわうち」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 本年10月17日に「道の駅ふくしま」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。**
福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

当日の様子



- 本年10月25日に開催された「騎馬武者ロックフェス2025×ふくしま12移住フェス」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



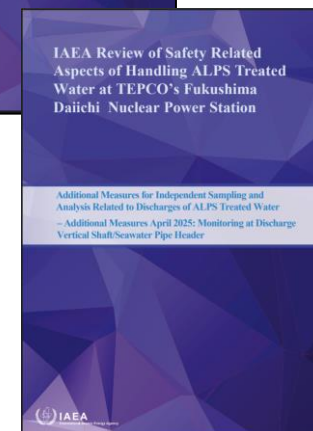
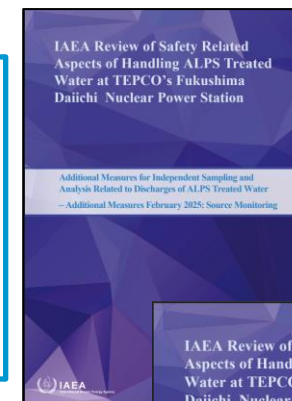
- 10月6日（月）、国際原子力機関（IAEA）は、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングに関連する、（1）海水希釈前のALPS処理水の分析結果に関する報告書及び（2）海水希釈後・海洋放出前のALPS処理水の分析結果に関する以下の報告書の二つの報告書を公表しました。
 - （1）2025年2月に採取された海水希釈前のALPS処理水の分析結果に関する報告書
 - （2）2025年4月に採取された海水希釈後・海洋放出前のALPS処理水の分析結果に関する報告書
- 二つの報告書において、各参加分析機関から報告された測定結果は、**計画された通りのALPS処理水の海洋放出が人及び環境に与える放射線影響は無視できるほどであるとする2023年7月公表の「IAEA包括報告書」の結論と整合している旨**、記されています。
- 日本政府は、今後ともIAEAと緊密に連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めていきます。

参加分析機関（1）（2025年2月に採取された海水希釈前のALPS処理水の分析）

IAEA海洋環境研究所 及び IAEA福島ALPSラボ（IAEA）
フランス原子力安全・放射線防護機関（ASNR・フランス）
中国放射線防護研究院（CIRP・中国）
韓国原子力安全技術院（KINS・韓国）
シュピーツ研究所（SPIEZ・スイス）
東京電力ホールディングス株式会社（TEPCO・日本）

参加分析機関（2）（2025年4月に採取された海水希釈後、海洋放出前のALPS処理水の分析）

IAEA福島ALPSラボ（IAEA）
中国放射線防護研究院（CIRP・中国）
RPA「タイフーン」 環境モニタリング問題研究所（IPEM・ロシア連邦）
韓国原子力安全技術院（KINS・韓国）
シュピーツ研究所（SPIEZ・スイス）
東京電力ホールディングス株式会社（TEPCO・日本）



IAEAによる（１）2025 年2 月に採取された海水希釈前のALPS 処理水の分析結果に関する報告書、（２）2025 年4 月に採取された海水希釈後・海洋放出前のALPS 処理水の分析結果に関する報告書は、以下のIAEAウェブサイト参照

【IAEA】

– (1)Additional Measures February 2025: Source Monitoring

<https://www.iaea.org/sites/default/files/2025-10/additional-measures-for-independent-sampling-and-analysis-related-to-discharges-of-alps-treated-water-february-2025-source-monitoring.pdf>

– (2)Additional Measures April 2025: Monitoring at Discharge Vertical Shaft/Seawater Pipe Header

<https://www.iaea.org/sites/default/files/2025-10/additional-measures-for-independent-sampling-and-analysis-related-to-discharges-of-alps-treated-water-monitoring-at-discharge-vertical-shaft-seawater-pipe-header-april-2025.pdf>

【経済産業省】 国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書が公表されました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/10/20251007002/20251007002.html>

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02814.html

【水産庁】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kenkyu/251007.html>

【原子力規制委員会】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

https://www.nra.go.jp/news_only/20251007_IAEA_JP.html

- 古賀経済産業副大臣（当時）は、10月8日（水曜日）から10月12日（日曜日）にかけて、南アフリカ共和国のケベルハに出張し、G20貿易・投資大臣会合に出席しました。
- 古賀経済産業副大臣（当時）は、出張中に中国の李成剛（り・せいこう）商務部国際貿易交渉代表兼副部長と会談を実施し、ビジネス環境改善や、中国の輸出管理措置の運用の適正化、**日本産水産物について残された10都県産の輸入規制の早期撤廃などを求め、今後も緊密に意思疎通を重ねていくことを確認**しました。



（写真提供：経産省HP）



（写真提供：経産省HP）

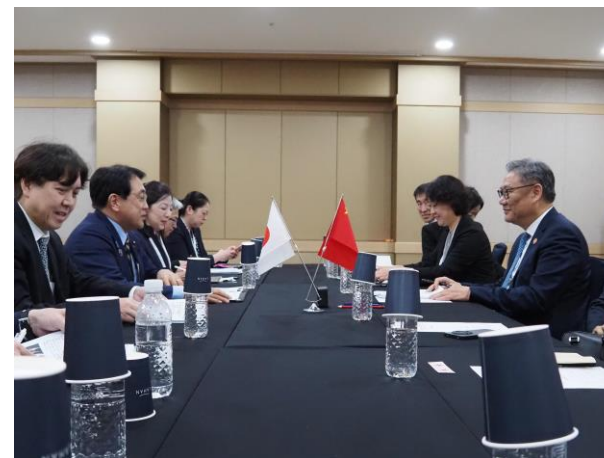
【経済産業省】 古賀経済産業副大臣が南アフリカ共和国へ出張しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/10/20251011002/20251011002.html>

- 赤澤経済産業大臣は、大韓民国・慶州に出張し、10月30日（木曜日）に開催されたAPEC閣僚会議に出席し、議長エコノミーである韓国がテーマとして掲げた「持続可能な未来の構築」に基づき、アジア太平洋地域の貿易投資の活性化や持続可能な成長の実現について議論を行いました。
- また、**赤澤経済産業大臣は、中国の王文涛（おう・ぶんとう）商務部長と会談を行い、日本産水産物について残された10都県産の輸入規制の早期撤廃などを強く求めました。**



（写真提供：経産省HP）



（写真提供：経産省HP）

【経済産業省】 赤澤経済産業大臣が韓国・慶州に出張しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/11/20251101001/20251101001.html>

- 10月28日、午後2時から約30分、茂木敏充外務大臣は、王毅（おう・き）中国外交部長と電話会談を行いました。
- **茂木大臣から、日本産水産物の輸入の円滑化に加え、日本産牛肉の早期の輸入再開、10都県産の農水産物など残された輸入規制の撤廃を働きかけました。**
- 双方は、首脳や外相を含め、様々なレベルでの意思疎通を行う重要性について確認しました。

【外務省】 日中外相電話会談

https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/c_m2/ch/pageit_000001_00001.html

茂木外務大臣会見記録（一部抜粋）（令和7年10月28日（火曜日）17時22分 於：外務省会見室）

日中外相電話会談

【茂木外務大臣】

次に、中国の王毅（おう・き）外交部長との間で、本日午後、14時からですが、約30分間電話会談を行いました。私と王毅部長との間で、旧知の仲でもありまして、20年来の、なんというか、やり取りもあるという中で、日中間で、「戦略的互惠関係」の包括的推進と、「建設的かつ安定的な関係」の構築を進めるという方針を再確認いたしました。その大きな方向性の下、様々なレベルでの意思疎通を重ねることで一致を見たところであります。

また、私の方からは、中国によるレアアース関連の輸出管理措置についての強い懸念、これを表明いたしました。尖閣諸島、尖閣周辺海域など、東シナ海での中国の活動に対する深刻な懸念を改めて伝え、拘束中の邦人の早期釈放と、在留邦人の安全確保を求めたところであります。また、**日本産食品の輸入規制についても働きかけを行いました。**

今後も、王毅部長との間でも、意思疎通を重ねて、課題と懸案を減らし、理解と協力を増やしていきたいと、こんなふう考えております。

【外務省】 茂木外務大臣会見記録

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/kaiken/kaikenw_000001_00182.html

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸20地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年10月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：J9エリアのタンク解体完了）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2025年10月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/l)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内(港湾内を除く)

20km圏内

エリア	海水の測定結果【単位:ベクレル/l】 (2025年9月1日～9月31日までに行われた測定結果の最大値)
トリチウム	3km圏内 23 20km圏内 検出せず(<8.7)
セシウム134**	3km圏内 検出せず(<0.98) 20km圏内 検出せず(<0.0014)
セシウム137**	3km圏内 検出せず(<0.96) 20km圏内 0.014

【参考】トリチウム濃度の比較

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や汚染水の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water_treatment/monitoring/

包括的・海域モニタリング観測システム(ORBS)

当社以外の各機関(環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県)が測定した海水および汚染水の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー（福島県双葉郡）

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.150

廃炉に必要な施設の敷地確保のため、ALPS処理水の海洋放出により空にしたJ9エリアのタンクを解体しました。

▶福島第一原子力発電所の廃炉作業の完遂に向けて、燃料デブリ取り出し等の廃炉作業を安全・着実に進めるために必要な設備・施設を設置するための敷地の確保を進めています。
▶その一環として、ALPS処理水の海洋放出により空にしたJ9エリアのタンク(12基)の解体作業を2025年2月14日から開始し、9月3日にエリア内のタンクの解体が完了しました。
また、同エリアに隣接するJ8エリアのタンク(9基)については、ヤード整備等の準備が整い次第、2025年度内に解体作業を開始する計画です。解体作業完了後のJ8・J9エリアは、3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の設置を予定しています。

【J9エリア】(今般、解体完了)

- 敷地面積:約1,600㎡
- 貯蔵タンク:12基(直径約9m、高さ約12m、容量700㎥/基)

【J8エリア】(今般、解体開始)

- 敷地面積:約1,300㎡
- 貯蔵タンク:9基
- 貯蔵タンク:9基(直径約9m、高さ約12m、容量700㎥/基)

発電所構内図(イメージ)

タンク解体前のJ9エリアの様子(撮影日:2025年2月13日)

タンク解体後のJ9エリアの様子(撮影日:2025年9月3日)

QRコード: J9エリアタンク解体作業の最新情報はここをご覧ください
▶【解説動画】J9エリアタンク解体作業
https://www.tepco.co.jp/films/video/0628-1.htm?cid=011709&video_id=15024

QRコード: ALPS処理水の海洋放出についてはここをご覧ください
▶【ALPS処理水の低減状況】
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water_treatment/alpsrate/

QRコード: 福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大畑町大字沢井2-22